

## 石巣禅寺 岩手県商工観光業表彰の受賞報告

### 7月3日 [市長室]

宗教法人石巣禅寺は岩手県商工観光業表彰（知事表彰）を受けたことを市長へ報告しました。住職の都築利昭さんは「表彰をいただき、とても光栄に思っている。これからも金石の観光の一端として頑張っていきたい」と話しました。金石観光物産協会の和田事務局長は「昨年、金石大観音落慶50周年を迎えたことや恋人の聖地、市民結婚式などの取り組みが評価されたのではないか。いち早く外国語でのパンフレット作成に取り組んでいたことも見逃せない」と受賞の理由を紹介しました。



「感染症対策として、お参りに来る人が3密にならないよう工夫したい」と気を引き締めました



施設は解体となります。供えられた千羽鶴やノート類は新たな施設で保存されます

## 追悼施設解体式

### 7月3日 [常楽寺 敷地内]

金石市追悼施設は震災で亡くなった方々を悼む場として設置され、多くの人が訪ましたが、金石祈りのパークが完成したことから解体が決定しました。この日は施設に敷地を提供してきた常楽寺の藤原住職により読経が行われ、参加した遺族や地域住民、市職員が手を合わせました。施設を維持管理してきた鶴住居地区復興まちづくり協議会会長の佐々木憲一郎さんは「この施設には感謝してもしきれない。今後は、新たな施設で引き続き供養をしていきたい」と語りました。



思い思いのキャラクターやイラストを描いたうちわに思わず笑みがこぼれます

## 中妻地区見守り隊へのうちわ贈呈

### 7月21日 [中妻地区生活応援センター]

上中島児童館（佐藤悦男館長）と児童らは日頃の見守り活動に感謝を伝え、中妻地区見守り隊へうちわを贈呈しました。代表の柏崎寧々さん（双葉小5年）が「いつも安全に横断歩道を渡させていただきありがとうございます」とあいさつすると、同隊隊長の永澤光雄さんは「かわいいうちわをありがとうございます。梅雨が明けると暑くなるので、大事に使わせてもらいます」と応え、使い捨てマスクのお返しをしました。



4日間で165人が訪れたラベンダー観賞会。ポプリやドライフラワーにすると持ち帰る人も

## ラベンダー観賞会

### 7月23日～26日 [橋野鉄鉱山ラベンダー園]

今年のラベンダー観賞会は、橋野鉄鉱山のユネスコ世界遺産登録5周年を記念して開催。橋野鉄鉱山インフォメーションセンター近くのラベンダー園には、橋野町振興協議会の皆さんが育てたグロッソラベンダーが咲き誇り、辺り一面はその香りに包まれていました。訪れた人は、来年咲く花芽を切り取らないように説明を受けた後、刈り取ったり、写真を撮ったりしながら、思い思いに梅雨の晴れ間を楽しみました。



直近の活動として、10月に開催される「いわて・かまいしラグビー・モアリアルイベント」でのボランティア活動も計画されています

## 金石ラグビー応援団 設立団結式

### 7月29日 [チームスマイル・金石PIT]

ラグビーワールドカップ2019™金石開催によって培われた地域間の交流や全国のボランティア参加者などとの連携を継続的に推進するため、金石ラグビー応援団が設立されました。団結式には団員の他、高校生など約30人が参加。団長に就任した中田義仁さんや高校生は、大会の開催をゴールにせず金石の未来のまちづくりに生かす、その一翼を担いたいと話しました。今後は、ラグビーを活用したまちづくりのため、市民のニーズに合った事業やアイデアを若い世代と一緒にやって提供していきます。

## 民生委員・児童委員に対する厚生労働大臣表彰に係る表彰状および記念品伝達式

### 6月5日 [市長室]

長年にわたり民生・児童委員活動に精励してきた功績を顕彰して、表彰状と記念品の伝達式が行われました。表彰を受けたのは澤田憲章子さん（嬉石地区、在職21年）、埜木隆司さん（中妻地区、在職18年11ヶ月）、西村晴夫さん（中妻地区、在職16年3ヶ月）の3人です。市長が「市民を代表して敬意と感謝を申し上げたい。今後も、温かいご指導をいただければ」と感謝を伝えると「やはり被災地区の民生委員なので、災害対応は思い出深い（澤田さん）」「倒れていた人を発見し、救急対応できたのが、民生委員をやって一番良かったこと（埜木さん）」「昭和園が避難所になって2週間ほど炊き出しをしたのが印象に残っている（西村さん）」とそれぞれの活動を振り返りました。



表彰を受けた皆さん（左から澤田さん、埜木さん、西村さん）

## 民生委員・児童委員の委嘱状等伝達式

### 6月5日 [市長室]

新たに中妻地区の民生・児童委員となった大谷道代さんに、厚生労働大臣・岩手県知事からの委嘱状が伝達されました。市長が「お力添えをいただいて、市民の皆さん安心して暮らせるまちを作りたい」と述べると、大谷さんは「県外から移り住んできた私に、まちの人がいろいろなことを教えてくれたり、親切にしてもらった記憶がある。私も何かのお役に立てれば」と意気込みました。



大谷さんは中妻町1丁目一部地区を担当します

## Kamaishiコンパスの開催

### 6月20日 [釜石高校]

高校生が、さまざまな経験や経歴を持つ社会人と触れ合い、新しい発見や将来に向けての意識や行動の変化の機会となるように始まった、「Kamaishiコンパス」が釜石高校で開催されました。2年生約170人を前に釜石シーウェイブスRFCの桜庭吉彦ゼネラルマネージャーが「リーダーシップとチームワーク」をテーマに講演。「目標に向けて準備をする大切さ」や「何事も諦めない大切さ」を高校生に話しました。桜庭さん自身が出場したラグビーワールドカップの経験談も話し、高校生は興味深そうに聞き入りました。



今回は18講座が設けられ、新型コロナウイルス感染症予防のため県外の講師が担当する8講座はオンラインで実施されました

## 地域おこし協力隊委嘱状交付式

### 6月26日 [市長室]

今年度3人目の起業型地域おこし協力隊員として、新たに水島寿人さんが着任しました。市長から委嘱状を受け取った水島さんは「関東出身で釜石は縁のない土地だったけれど、震災のボランティア活動を継続したことで縁ができた。これまで外から釜石を応援するという立場だったが、継続して支援したいと思い、改めて協力隊に応募した」と話しました。今後は地元企業を回りながら、地域の産業の課題や可能性を可視化する活動を行い、産業コーディネーター的な役割から地域振興に貢献する計画です。



「中小企業診断士の知識を生かして釜石を盛り上げたい」と意気込みました

## 地域おこし企業人委嘱状交付式

### 7月1日 [市長室]

地域おこし企業人交流プログラムは都市部の民間企業などの社員を地方自治体が受け入れ、地域の価値向上につながる業務に従事する総務省の制度です。今回、地域おこし企業人として江崎グリコ㈱商品開発研究所から出向した大窪諒さんは「多様なバックグラウンドを持つ人が釜石で活動していることを聞いてワクワクしている。協創して新しい事業の開発に挑戦したい」と決意表明しました。今後はプリン製品や飲料を開発してきた経験を生かし、地域ブランド確立と食育をテーマに活動していく計画です。



「釜石の強みを知るために、さまざまな現場に足を運びたい」と大窪さん